

市長から市民のみなさんへ

78

山陽小野田市長 白井 博文

お見舞いに行ってきました

休止となった山陽市民病院から他の病院に転院された方々のお見舞いに行ってきました。あちこちの病院や介護施設で治療、療養されているみなさんには転院の際にはご不自由をおかけしたことについては改めてお詫び申し上げます。

ずっと目は閉じていらっしゃいましたが、「耳は聞こえますよ」という看護師さんに促され、耳元でお見舞いの声をおかけした方、また、記念写真をお願いされるなどの歓待を受け、こちらが恐縮してしまう場面もありました。

市民病院の都合でご迷惑をかけてしまった方々に少し遅くなりましたが、今回、一人ひとりにお詫びとお見舞いをする貴重な機会となり、みなさんにとって穏やかに時が過ぎていかれますようにという祈念の気持ちを一層強くしました。

様々な分野のボランティア活動

まちの「住みよさ」づくりに、各方面でボランティアの方々が活躍されている様子は前号でもご紹介しましたが、最近、「学校ボランティア」と呼ばれる人たちの活躍も目立ちます。教室で先生のお手伝いをしてくださる学校支援ボランティア、痛んだ机、椅子などを修繕してくださるボランティア、校庭の草刈りや樹木の剪定に汗を流してくださるボランティアのみなさん、本当にありがとうございます。

また、他にも多重債務に苦しんでいる市民の方への生活支援ボランティアも、献身的な活動をしています（相談日：毎週木・日曜日 場所：小野田勤労青少年ホーム）。市民憲章でうたわれている「私たちは、このまちの未来のために汗を流します。」を地で行く人たちの姿に本当に頭が下がる思いです。

対話の日

【いずれの会場も19:00から】



8月28日(木) 市民センター
9月11日(木) 郷自治会館

近況をご報告します

この前、60代の女性から、公共施設のトイレの洋式化の役にたててほしいと、今時珍しい銀行の帯封のついた100円札の束10束と、500円硬貨がいっぱい詰まった大きい貯金箱の寄附をいただきました。ありがとうございます。高齢化が進み、腰掛けて用の足せる洋式便所のない公共施設に出かけることをためらう高齢者が増えています。この寄附もそうした不便の解消に役立たせていただきます。なお、腰掛け式の簡易トイレは、市のどの施設にも備え付けていますので、入用の際はお気軽に職員にお申し付けください。

最後にうれしいメールが市役所に届きましたのでご紹介させていただきます。「仕事柄、人口等を調べに市役所を訪問する機会が多いのですが、先日、山陽小野田市を訪れた時、総合案内から担当の方まで親切に対応していただきました。西日本全域で同様の調べ物をしてきましたが、ここ数年で山陽小野田市の対応の印象がベストと感じメールした次第です。山陽小野田市の今後の発展を期待しています。」

このような善意のメールを含めて、市内外からの方から、1年に約300件の市長宛の投書（手紙やメール）が届きます。ご住所とお名前の記載があり、お返事が必要とされている場合は、担当課と協議のうえ、現状と今後の対策などについて、必ず、お返事を差し上げることにしています。どうぞ、ご利用ください。